

令和元年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和元年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 令和元年7月9日（火）午後3時00分～午後5時00分
会 場 下野市役所 3階 303会議室
出席者 倉井典子 委員、阿嶋敬一 委員、青木浩美 委員、隅内 宏 委員、
熊谷正臣 委員、大塩宗里 委員、五十嵐早苗 委員、小谷光子 委員、
小野瀬善行 委員、渡邊欣宥 委員、宮下明枝 委員、
【欠席委員】永山一夫 委員、小林幸代 委員、舘野 勝 委員、伊沢幸子 委員
市側出席者 坪山 仁 教育次長、
(事務局) 近藤善昭 教育総務課長、田澤孝一 学校教育課長、星野友保 学校教育
課課長補佐兼指導主事、森口哲二 同課主幹、稲葉亜希恵 同課主幹兼指導主事、
稲見雄太 同課主幹兼管理主事、土田礼巳 同課主幹兼指導主事、佐々木功一 同
課主幹兼指導主事、上野保久 同課小中一貫教育統括コーディネーター
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍 聴 人 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和元年7月10日

1. 開会（田澤課長）

2. 委嘱状交付

3. 委員紹介（自己紹介）

4. 会長、副会長選出

会長あいさつ（小野瀬会長）

ただいまご指名いただきました宇都宮大学の小野瀬でございます。会長としてたいへん責任重大ではございますが、委員の皆様のご指導を賜りながら、会の充実に努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

副会長あいさつ（大塩副会長）

ただいまご指名いただきました大塩宗里と申します。会長を助けながら、微力を尽くして参りたいと思います。よろしくお願いします。

（田澤課長）議事に入る前に、本協議会設置の趣旨について、事務局より説明する。

（森口主幹）〔本協議会設置の趣旨について説明〕

5 議事

（1）本年度の各中学校区における推進について

（小野瀬会長）本年度の各中学校区における推進内容について、各中学校区の代表委員より説明をお願いします。

〔資料1：令和元年度～令和2年度 下野市小中一貫教育グランドデザイン（全体＆各中学校区）について説明〕

- (倉井委員) 南河内中学校区の説明
- (阿嶋委員) 南河内第二中学校区の説明
- (青木委員) 石橋中学校区の説明
- (隅内委員) 国分寺中学校区の説明
-
- (宮下委員) 初めて会議に出て、現在のグランドデザインを説明いただいた。日頃の教育活動がよくわかり、感謝の心がわいた。説明にあった「あいさつ運動」など、グランドデザインに記載されていないものがあるので、今後の改訂時には是非掲載してほしい。
- また、市の全体図の「地域とともにある学校」のイメージ図をもう少し具体的に記載してほしい。
- (渡邊委員) 市の目指す全体像について、説明があるとよい。
- (田澤課長) 小中一貫教育ハンドブックを基に作成したのがこの全体像である。〔市の4つの方針等について説明〕
- (宮下委員) 先ほどのイメージ図について、地域の大人であれば誰でも会員になれるのが「子供会育成会」であるので、記載する言葉は「子ども、大人、学び合い活動」などがよい。
- (熊谷委員) この小中一貫教育の推進によって、先生方の負担は増えるのではないか。
- (阿嶋委員) 昨年度の当初は負担を感じていた。しかし、互いに交流の無い状態から顔が見える状態に交流が深まり、負担感がだいぶ軽減されつつある。学校課題も共通にすることで、生み出す苦労が少なくなった。交流によって、学級づくりにおいても、相互理解が深まり、互いに得るものがある。
- (小野瀬会長) 相互乗り入れが進み、負担感、多忙感が減ってきているのを感じるということ。新しいことをやるのではなくて、今まで培ってきたことをやっていくということであり、それらをこの会議の中で協議できればと思う。「子ども未来プロジェクト」等、子どもたちの交流やいろいろな体験活動が盛んに行われているようである。今後、教科の取り組みや学び方についても柔軟な取り組みがなされていくのではないかとと思われる。同じものを目指す中学校区としての取り組みを期待したい。
- (大塩副会長) 各中学校区のグランドデザインについて、これだけのものを作るのはたいへんなことであつたろうと思う。自分の子どもや孫がこの教育の中で育てられていくと思うとほっとする。小中連携からスタートして、今、小中一貫というところまで来た。更に幼稚園、保育園そして自治体まで参加し、青少年育成市民会議からも参加してくださっている。小中一貫教育と地域との連携はすばらしい。今、青少年育成会議では、地域と小中学校との連携した活動がたくさん行われている。例えば、市の小中学校音楽祭は、高校まで入っている。更に他市と異なることは、その音楽祭は学校の先生方の運営ではなく、地域のPTA関係者が企画運営している。これは、小中学校と地域のすばらしい連携ではないかと思う。さらに小中学校の先生方が音楽部会を開き、一緒に研究・指導していくことができたらどんなにいいかと思う。やがて、グランドデザインに、地域との連携が色濃く入るのではないかと楽しみにしている。

(2) 南河内中学校区義務教育学校設立準備について

- (小野瀬会長) 南河内中学区義務教育学校設立準備について事務局より説明をお願いします。
- (近藤課長) [資料2 下野市南河内中学校区義務教育学校基本設計書〈概要版〉について説明]
- (星野課長補佐) [資料2 (仮称) 南河内中学校区義務教育学校設立準備組織体系図、設立に向けた主なスケジュールについて説明]
- (宮下委員) 5ページの配置・動線計画を見ると、門が多い気がするが、通常、学校にはこんなにたくさんあるのか。理由が知りたい。
- (近藤課長) 南側道路に面したものは、既存の門である。西側の門は、歩行者と車両とを分離するためにこのような配置になった。
- (宮下委員) 安全のためにこのような形になったということによいか。
- (近藤課長) その通りである。
- (熊谷委員) 地域の防災拠点としてということであるが、グラウンドなどは引き続き消防団の訓練などにも使われるのか。
- (近藤課長) 現在も使っているが、今後も使えるよう調整していく。
- (大塩副会長) これまでの説明を聞いて、わくわくしている。

(3) 今後のスケジュールについて

- (小野瀬会長) 今後の小中一貫教育の推進についてのスケジュール等について、事務局より説明をお願いします。
- (稲葉指導主事) [資料3 2019～2020年度 下野市小中一貫教育推進計画、資料4 令和元年度 小中一貫教育に関連した授業研究会・研修会等一覧について説明]
- (青木委員) 資料4の開催場所の訂正。
- (田澤課長) 小中連携教育を推進する中で、幼・保・小の連携も行っていることも、説明に付け足したい。市の教育としては、幼児教育と義務教育の一貫が目指すところである。幼児教育と小学校教育の段差を埋める取り組みとして行っている。

(4) その他

- (小野瀬会長) 新学習指導要領のキーワード「主体的・対話的で深い学び」とあるが、社会に開かれた学校を目指し、各学校ともご苦労されているところだと思う。漏れ聞こえてくる情報によると、10年後の学習指導要領は、学びの個別化が前面に出されてくるのではないかと。政府は必要な人材を具体的に出してくるのではないかと。例えば、AIで一人一人がどういうことを学ぶのかを考えていくというような状況になるのではないかとされている。そのような、新しい教育が期待される中で、地域でどのような人材を育てていくかが大切になってくる。今後の会議でも、それぞれの立場からのご意見、よろしく願いたい。
- (小野瀬会長) 以上、終了する。